

## 政策討論会まとめ

## I 財源確保により周辺地域インフラ整備を進めること

《具体的内容》

## a.財源及び周辺地域の対象調査

- 地域にとって緊急性のものを実際に見て、一般財源でできるものと特例債を充当したほうがよいと考えられるものとのランクづけ、さらに予算を必要としないものとの区別を行う。
- 区長などと共に地域の実態把握をして作成した基礎資料等をもとに具体的な計画を執行部と協議していく。

～インフラ整備例～

- ・ 高齢化に対応し、防災に重点を置いた道路の整備
- ・ 農道のアスファルト舗装整備
- ・ 消防車や救急車が通るような道路などの地域に配慮した整備
- ・ 農漁村地域の公共下水道整備（農集排水事業等）
- ・ 高齢者に対する交通手段の整備
- ・ 訪問介護等が充実するような介護支援センターの建設

## II 小郡跡地の効果的利用と地場産業の育成を行うこと

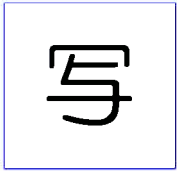
《具体的内容》

## a.小郡跡地の整備と企業誘致の実現

- 小郡跡地には大量の水を確保でき送り込むことのできるような施設整備を検討する。
- 最初に行う企業誘致を的確に判断し、他の企業の誘致を円滑に進める。
- 進出計画のある企業数を調査し、市と県とで情報交換しながら白杵に適している企業の誘致を促進する。
- 小郡跡地を県南地域の企業誘致の拠点として誘致促進を図る。

## b.地場産業（商品）の活性化と農業支援策の創出

- 市内のスーパー等に置く地場企業の商品数を増やす。
- 竹資源等の利用や見直しとともに特徴のある商品を作り出す。
- 市内の観光施設、土産物屋で地元の農産物などを土産物として販売促進する。
- 野菜・果物の価格保障対策、農家女性への支援策、農業集積地の確保を図る。



平成18年3月1日

## 政策提言書

臼杵市長 後藤 國利 殿

政策討論会第1部会において深められた議論について政策提言します。

臼杵市議会議長 牧 宣 雄

政策討論会第1部会長 足立 善己

## 【提言】財源確保により周辺地域インフラ整備を進めること

### ・ 具体的内容

◎有利な財源を駆使して周辺部対策を進める。

◎地域の実態把握調査を基礎にして、議会と執行部とで政策議論をするシステムを構築し周辺地域の活性化を図る。

### ・ 提言の趣旨

第1部会では、合併後の周辺地域整備を新市の重要課題として位置づけ、「財源について」の議論、さらには「周辺地域の整備対象調査」として、地域にとって緊急性のあるものを部会員で実際に現地調査等を行ったところである。

財源については

1. 「一般財源」でできるもの
2. 「特例債」を充当した方がよいと考えられるもの
3. 予算を使わずに解決していけるもの

等に区分分けすること、さらにそれぞれの区分ごとに優先順位をつけていくことも議論され、とりわけ、農道の舗装等農村周辺部の整備に対して「農村振興総合整備事業」を的確に活用するなど、効果的な補助事業を模索することが必要であると結論づけられた。

また、周辺地域整備を代表的なものとして、政策立案に関しては、地域の住民、区長と相談しながら地域の実態把握をするための調査を行い、それらの基礎資料をもとに議会案を作成、執行部と具体的な執行計画を議論していくシステムを政策討論会も含めた上で、市役所内につくり上げる必要がある。

## 【提言】地場産業（商品）の活性化と農業支援策の創出

### . 具体的内容

◎臼杵の農林水産物の商品化の支援策（制度等）を確立する。

### . 提言の趣旨

臼杵市は、広大な農地を持つ野津地域を中心として本物の農業を創出するための最もよい条件（人、気候、土など）を備えている。

また、同時に多くの竹林も所有していることから、生活、健康面において多くの効能を持つ竹資源の見直しと利用を図り、さらには臼杵市の豊かな海や大地から獲れる魚介類、農産物を特徴のある商品としてアピールするなど、自然と人の持つ力を最大限に利用して農業、漁業の活性化を図ることと農林水産物の商品化を支援するための制度の設立が必要である。

## 政策討論会まとめ

## I 臼杵市の少子化対策と正しい子育てを実現すること

《具体的内容》

## a. 臼杵市独自の少子化対策事業の創出

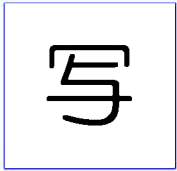
- 少子化の総合対策を目指す。
- \* 医療費の無料化を延長する。
- \* 診察無料券を1回分追加する。
- \* 子育て特区、教育特区を検討する。
- \* IT企業の誘致、育成を図る。
- \* 中学生までのインフルエンザ予防接種の費用の助成を図る。
- \* 若者を対象とした公営住宅の絶対数を増加させる。
- \* 若者の民間住宅の入居に対する助成を図る。
- \* 子育てをしないといけない人、子供の多い人が優先されるように入居条件を見直す。

## b. 子育て支援社会の形成、子育て環境の充実

- 高齢者対策、地域介護等と子育て支援が一体化した形の地域コミュニティを形成する。
- 教育、生活環境の受け皿をつくり、子育てのしやすい環境のまちづくりを推進する。
- 日本の国民性及び社会構造を改め、男性の子育てを認める社会を創出する。
- 子供のときからその地域の商業、農業を通して地域性を育て、職業観を植え付ける。
- 祖父母と生活するような家族制度を取り戻す。
- 臼杵の優れた先人とのネットワークによる人育て、人づくりを考える。
- 子育てをしている父母を中心とした地域のネットワークを体系づける。
- 介護予防施設などと併設して総合的な児童クラブの運営を図る。
- 学校施設を有効に使うなど、地域全体で安心できる児童クラブの充実を図る。

## c. 議会による少子化調査

- 議会が母親を対象とした公聴会を開催して意見を吸い上げる。
- 若い世代（未婚者、既婚者）を対象として、子育てに対するアンケートをとる。



平成18年2月8日

## 政策提言書

臼杵市長 後藤 國利 殿

政策討論会第2部会において深められた議論について政策提言します。

臼杵市議会議長 牧 宣 雄

政策討論会第2部会長 板井 孝太郎

## 【提言】臼杵市独自の少子化対策と子育て支援を実現すること

### ・ 具体的内容

- ◎中学生までのインフルエンザ予防接種の費用助成を図る。
- ◎医療費無料化の対象を延長する。

### ・ 提言の趣旨

出生数の減少や出生率の低下傾向が続いており、2005年より日本は急激な人口減少の時代に突入している。臼杵市も例外ではなく、市議会では政策討論会の中で市長以下執行部と互いに少子化問題に対する最適な対策を模索しながら討論を重ねてきた。

少子化問題の要因の一つにある養育に対する経済的負担感について議論が深められるなかで、多数の人が同時に感染するおそれのあるインフルエンザの予防について、高齢者と同様、特に重症化しやすい乳幼児をはじめとして、成長期の大切な時期である小・中学生に対してワクチン接種費用を助成し、また、乳幼児医療費給付に対する無料化の対象年齢を1歳でも長く延長（現状：通院3歳児、入院6歳児まで対象）することで負担の軽減及び精神面の不安解消を図り、安心して子供を産み、育てることのできる環境づくりを目指す。

## 政策討論会まとめ

## I 防災に対する意識と消防体制を強化すること

《具体的内容》

## a. 自主防災組織の育成

- やる気のある人の育成と併せて普段より自主防災研修の実践に努める。
- 近隣の区どおしが一体となった組織づくりを目指す。
- いざというときに役立つための目安を作る。
- 人の援助が必要な人の所在地マップを地域ごとに定める。

## b. 消防を中心とした体制づくりと災害時の道路網の整備

- 消防通信体制を強化し、双方向通信の整備を図る。
- 東部消防と臼杵市消防との融合、本署と野津分署の機能を同規模とする。
- 消防の命令系統を確立し、市役所、消防団、自主防災のかみ合った組織体制を確立する。
- 災害時の避難場所及び毛布、食事等の整備を図る。
- 大雨、高潮時の車の避難場所の確保を図る。
- 冠水道路の整備を含め、防災に早急に対応できるような道路網を整備する。

## II 大切な資源を守り新しい観光を創出すること

《具体的内容》

## a. 新しい形の観光の展開

- 地域資源を地域住民で大切に守り、その「光」を「観」てもらおう。
- \* 竹資源をPRする。
- \* 仮屋橋の水路の放水、周辺の駐車場及び遊歩道の整備を図る。
- \* 石像文化財を臼杵の石工等とも関連づけ、502号線沿いを石のまちとして展開する。
- \* 虹澗橋を従来の姿にとり戻すよう関係自治体と連携をとる。
- \* 町八町あたりの家屋を保全する。
- \* ヒメボタルをPRする。
- \* 小郡跡地を農産物の有機ゾーンとして臼杵から発信する。
- \* 観光案内バッジ、街角ガイドの旗などを設置して観光客を案内する。

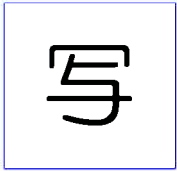
## III 市民の目線に立った行財政改革を推進すること

《具体的内容》

## a. 職員の資質向上と行政サービスの拡大

- 民間の方法等も視野に入れ、職員のレベルアップ及び意識改革を図る。
- 職員の能力を洗い出し、住民サービスの質を低下させることなく職員の削減を図る。
- 市民に対して行政がしなければならない指針及び財政見通し等を明確にアピールする。
- 税の徴収や滞納整理をはじめ、文書通知だけでなく担当者が直接出向いて対応し公平な納税を図る。
- 国道等についても市道同様に市民の目線で窓口が開けるような組織替えを推進する。
- 予算が確保されている事業は早急を実施する。
- 限られた財源で実行しなければならないことを組み立てる。
- 入札制度の抜本改革を進める。





平成18年3月1日

## 政策提言書

臼杵市長 後藤 國利 殿

政策討論会第3部会において深められた議論について政策提言します。

臼杵市議会議長 牧 宣 雄

政策討論会第3部会長 川野 方男

## 【提言】防災に対する意識と消防防災体制を強化すること

### . 具体的内容

- ◎自主防災組織を形成し研修に努める。
- ◎消防の命令系統を確立する。
- ◎災害時に早急に対応できるような道路網を整備する。

### . 提言の趣旨

近年、地震及び津波等の災害が多発している。いざという時のため最も身近にあり効果的な事後処理を行えるよう、野津地域では自主防災組織を早急に立ち上げ、臼杵地域では自主防災組織が機能するように育成することが急務である。それには、近隣の区どおしが一体となった組織づくりを目指し、普段から地域内の安全点検や各々の防災知識の啓発、防災訓練の実施等で災害に備え、さらに地域の実情に応じた防災資機材等の整備も図る必要がある。

また、被害を最小限に食い止めるために災害時でも通行可能な道路網の整備が不可欠とされ、さらに、的確な判断、迅速な処理を行うため消防署を中心として市役所、消防団、自主防災のかみ合った組織体制の形成、命令系統の確立が必要とされる。

## 【提言】大切な資源を守り、新しい観光を創出すること

### ・ 具体的内容

- ◎石造文化財と有機農業を連携して集客を図る。
- ◎『仮屋橋』を野津地域の光として多くの人に観てもらおう。

### ・ 提言の趣旨

野津地域から臼杵地域にかけて数多く存在している石造文化財の掘り起こしと臼杵の広大な農地、有機農業を連携して1つの観光ゾーンとして発信することがこれからの観光の目指すところとして考えられる。

地域資源を地域住民で大切に守り、それらの資源を有効に使った新しい形の観光の展開が必要であると考え、行政の手を借りずに地域住民を中心とした組織作りを行い、自主的に清掃、整備活動を行っている石橋「仮屋橋」を野津地域の観光及び集客の拠点として光を当てたい。そのためには、地域住民の力だけでは困難なハード面等については行政のご指導、お力添えをいただきながら、主に仮屋橋上を流れている水路からの放水の試みや周辺の駐車場整備、さらには下流に見える明治橋を視野にいれた周辺整備も含め、新たな文化・観光の型として、その「光」を「観」てもらおうことが大切である。